

## 実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

### ■活動概要

助成年度	令和7年度
助成団体	一般社団法人バスケットボール女子日本リーグ
事業細目名	下部リーグ開催事業
事業名	Wリーグ フューチャーリーグ
助成金額	11,848,000円

令和7年度将来性を有する競技者の発掘及び育成活動助成（下部リーグ開催事業）で一般社団法人バスケットボール女子日本リーグが行っている「Wリーグ フューチャーリーグ」の実施状況について調査を行いました。

### ■助成の意義

助成を受けたことで、Wリーグとして、活動規模の縮小や他事業を削ること等を行わず開催できているそうです。また、Wリーグは男子バスケットボールBリーグのような、一定以上の試合を本拠地とするアリーナで開催するホームアリーナ制度を現時点において導入しておらず、日本各地で試合を開催するスタイルとなっているため、地域を問わず会場の音響・演出を一定レベルに保つ必要があります。そのような会場規模を問わずに、観客・選手との一体感や盛り上がりが必要となる演出の実施は、助成を受けられなかった場合、会場によって大きな差が出てしまうことが想定され、また、参加チームの年会費や各試合の興行権の値上げを考えなければならず、Wリーグ含め、女子バスケットボール全体への影響が出る可能性があったとのことでした。

### ■事業効果を高めるための取り組み

前述の通り、Wリーグはホームアリーナ制度を導入していないことから、より多くの人達に女子バスケットボールを知ってもらい、興味を持ってもらえるようにするため、調整が叶えば日本各地の市区町村に赴き、直接プロの試合に触れる機会が少ない子ども達や、興味はあるが身近に見に行ける環境のない人達にも試合を観戦してもらえるようなスタイルで活動を行っているとのことでした。また一方で、最近では部活動の地域移行という流れもあり、地域に根付いたクラブが興味を持つ子ども達の受け皿になれるように、そしてより身近に感じてもらえるように取り組んでいるそうです。

### ■その他

このフューチャーリーグに参戦している選手の目標となるべく、2028年にロサンゼルスオリンピック、2030年に女子バスケットボール・ワールドカップに向け、加えて、2030年はJBA（日本バスケットボール協会）が創設100周年という節目を迎えるため、今後より一層Wリーグを盛り上げ、フューチャーリーグからも世界を相手に活躍をする選手を多く育成できるようにしてい

きたいとのことでした。

#### ■所感

調査当日は姫路イーグレッツのホーム開幕戦ということもあり、天気が悪い中でも地元のファンが駆け付けていました。また対戦相手の SMBC TOKYO SOLUA は今年から参戦した新規チームではあるものの、大手企業チームということもあり、アウェイ側の応援も多く、盛り上がりを見せていました。

音響や演出も地方の体育館ながら、プロの MC ナレーションもあり、会場の観客・選手が一体となっているのがとてもよく感じられ、またハーフタイムでは兵庫県たつの市の伝統的な太鼓演奏等が披露され、バスケットボール競技だけではなく、ふるさとの PR や地元子ども達が活動を披露する場もセッティングされていました。今後も未来ある選手の成長の場となり、バスケットボール競技の普及に貢献することを期待しています。

(令和 7 年 10 月 25 日往査)

(写真) W リーグ 姫路イーグレッツ対 SMBC TOKYO SOLUA の様子

